

人工知能・ニューラルネット・ディープラーニングの発展史

年代	特徴	技術・キーワード
1950年頃	第1次人工知能ブーム ニューラルネットの登場	ダートマス会議(1956) パーセプトロン(1958)
1960年頃		ファジィ理論
1970年頃	技術的な難問の登場(冬の時代)	ニューラルネット「XOR」問題発生(1969) フレーム問題
1980年頃	第2次人工知能・ニューラルネットブーム	遺伝的アルゴリズム エキスパートシステム 誤差逆伝搬法の発見(1986)
1990年頃	ニューロ、ファジィなど 産業への活用	遺伝的プログラミング データマイニング チェスでAIがチャンピオンに勝利
2000年頃	人工知能が一般化される動きが出始める	ロボットペットの登場 インターネットの普及 オートエンコーダー
2010年頃	第3次人工知能ブーム	ディープラーニング登場 ※ 囲碁でAIがプロ棋士に勝利



2000年代後半、ニューラルネットの学習に十分な大量データと、それを処理できる計算機が比較的容易に入手できるようになり処理能力が大幅に上昇し、2006年「高次元データの階層的な表現の学習」にディープラーニングという言葉を用いた。